

## 年末年始の火災予防について

年末年始は自宅で過ごす時間が増えると同時に、この時季になると空気が乾燥し、暖房器具や火気を使用する機会が増えることから、火災が多発する恐れがあります。

当消防本部では、令和5年中に31件の住宅火災で、複数の死傷者の被害が発生しております。住宅火災の主な原因としては、「たばこ」「ストーブ」「こんろ」「電気機器」「たき火」等です。

これから使用頻度が高くなるストーブを使用する場合は、カーテンや布団、スプレー缶など、燃えやすい物を近づけない等の対策をお願いします。

### 住宅防火 命を守る 10のポイント ～ 4つの習慣・6つの対策 ～

#### 【4つの習慣】

- (1) 寝たばこは絶対にしない、させない。
- (2) ストーブの周りに燃えやすいものを置かない。
- (3) こんろを使うときは火のそばを離れない。
- (4) コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く。

#### 【6つの対策】

- (1) 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する。
- (2) 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
- (3) 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する。
- (4) 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく。
- (5) お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく。
- (6) 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う。

また、今後乾燥した気候が続くため、たき火や火入れから大規模な林野火災につながる危険性があります。廃棄物の焼却「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」で原則禁止「禁止の例外」とされている焼却を行う場合は、火災にならないように、火の取扱いには十分な注意をお願いします。

- (1) 空気が乾燥しているときや風の強いときは、焼却を行わない。
- (2) 消火器、水バケツ、スコップ等の消火の準備を行う。
- (3) 燃やしている時は目を離さない。
- (4) 一度に多量の焼却を行わない。
- (5) 焼却後は、必ず消火を確認してからその場を離れる。
- (6) 衣類への着火や火傷に注意する。
- (7) 消火ができない場合は安全な場所に避難し、速やかに119番通報する。



# 住宅防火

## いのちを守る10のポイント

様々な火災の中でも、特に住宅で発生する火災で多数の死者が出ており、その出火原因はたばこ、ストーブ、こんろ、電気機器など、生活する上で身近にある機器が多くを占めます。

日頃から取り組んでいただく住宅防火対策として、4つの習慣、6つの対策からなる「住宅防火いのちを守る10のポイント」を取りまとめました。

是非、ご家族の皆様で住宅火災からいのちを守るための対策をご確認ください。

### 4つの習慣



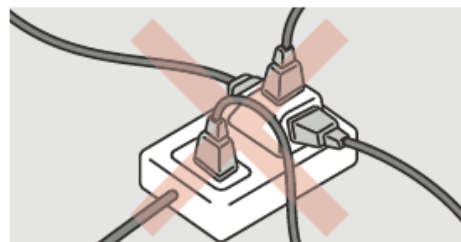
①寝たばこは絶対にしない、させない



②ストーブの周りに燃えやすいものを置かない

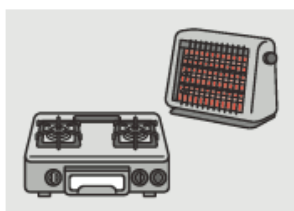


③こんろを使うときは火のそばを離れない



④コンセントはほこりを清掃し、 unnecessary プラグは抜く

### 6つの対策



①火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する



②火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する



③火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する



④火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく



⑤お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく



⑥防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う